

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立立川高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 教務生活指導部主幹（事務局長）、経営企画室長 計2名
- (3) 内部委員の構成
統括校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当・生活指導担当)、主任教諭(進路・保健担当)
計5名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
PTA会長、PTA役員、芙蓉会（同窓会）会長、武蔵台学園校長、砂川高校校長、NPO法人
育て上げネット部長、たちかわ若者サポートステーション総括コーディネーター、立川市子育て支援部課長 計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年7月8日（金）16時00分～17時00分内部委員6名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明（部活動・行事の様子、進路準備近況、併修制度等）意見交換
 - 第2回 令和4年10月7日（金）16時00分～17時00分内部委員6名、協議委員5名
これまでの教育活動に関する報告（自立支援活動について）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和4年12月6日（金）16時00分～17時00分内部委員6名、協議委員8名
これまでの教育活動に関する報告（行事など）
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年7月8日（金）内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和4年10月7日（金）内部委員2名、協議委員2名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和4年12月6日（金）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11.12月	全校生徒	対象：162人	回収：123人	回収率：75.9%
・11.12月	保護者全員	対象：162人	回収：49人	回収率：30.2%
・11.12月	教職員	対象：13人	回収：13人	回収率：100.0%
	地域・住民	対象：実施せず		
- (3) 主な評価項目
 - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・第一に、教員や生徒には teams に forms で作成した QR コードよりアンケートを実施した。
 - ・第二に、保護者には、アンケート案内に QR コードの画像を張り付けたものを配布し、回答を得た。
 - ・その結果、昨年度比で生徒の回答率及び保護者の回答率は微減してしまった。保護者の回答率は微減しており、まだ半分にも届いていないことから改善する必要がある。一方、teams を活用したことで「立定生活の魅力」や「自由意見」は大きく増えており、意見しやすい環境が構築できた。回答できていない生徒には、引き続き QR コード画像から対応させていく必要がある。来年度は、保護者との連携をより深め、アンケート集約・周知方法を工夫・改善し数値の上昇に期待したい。

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
- ・生徒は、15項目中10項目について肯定の割合が減少した。5項目で肯定の割合が増加した。内5%以上、肯定の割合が増加し項目は、(4)「授業は分かりやすい」の1項目となった。
 - ・保護者は、16項目中12項目について肯定の割合が減少した。3項目で肯定の割合が増加した。内5%以上、肯定の割合が増加し項目は(15)体罰や暴力を無くす取組が積極的の1項目となった。
 - ・教員は、16項目中5項目について肯定の割合が減少した。6項目で横ばい、4項目で肯定の割合が増加した。内7%以上、肯定の割合が増加し項目は、(6)生徒指導で家庭と連携を保っている(9)進路相談機能の充実(13)生徒の健康や安全に関わる指導(15)体罰や暴力を無くす取組が積極的の4項目となった。ワーク・ワーク・バランスの取組には肯定的な教職員が減少した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・YSWによる自立支援活動（就労）も校内や関係機関との連携等も定着しつつあり、来年度に向けても中途退学の未然防止と希望の進路実現に向けて、その成果が更に期待されている。生徒にも実感として肯定的に受け止められている傾向が見られる。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・生徒、保護者、教員の三者すべてにおいて、(11)「生徒会活動に取り組んでいる」(12)「部活動は充実している」の二つの項目で肯定の割合が大幅に減少してしまった。特に教員の回答では(12)「部活動は充実している」が50%まで下がっており、部活動を活性化させることが必須事項となった。
- ・PTA、芙蓉会（同窓会）との連携を密にし、生徒の教育活動への協力を積極的にお願いしていく。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供する工夫が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒、保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を明示し理解を得る工夫をする。
- ・生活指導については校内組織改編を図ると共に、今まで以上に外部機関、保護者との連携を強化する。
- ・積極的に地域、自治体（立川市など）の取り組みに協力し、学校説明会等を実施・参加する。

(2) 学習指導

- ・若手教員授業力向上プロジェクトを中核に授業改善を進める。全日制との相互授業参観の回数増。
- ・開発研修、教育研究員、自主研修等の積極的派遣を通して、研究成果を現場に還元する。
- ・ICTリーダーを中核に、ICT機器を整備し、積極的な相互授業観察を行い、工夫した授業を推進する。

(3) 特別活動

- ・PTAと芙蓉会（同窓会）の支援を受けながら学校行事、部活動（全国大会2部出場）の更なる充実を図り生徒の参加率を向上させる。

(4) 生活指導

- ・校外における喫煙行為を組織的に未然防止する。虐待・いじめ防止対策委員会の機能充実を図る。

(5) 進路指導

- ・自立支援継続活動において、YSW・SC、NPO法人育て上げネット等の外部機関と連携を密に取り、きめの細かい就労支援と福祉支援を更に充実させる。

(6) 健康・安全

- ・学校給食の喫食率の維持、向上を図る。給食運営委員会の設置・点検指導により課題の改善を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】令和4年12月6日（金）第3回学校サポートチーム委員会において、委員である立川警察少年課担当より令和4年度（立川・定）生徒の補導件数はほぼ0件と報告をいただいた。

8 その他

- ・特になし